資料３

資料編

目 次

資料編 1 旭市海業推進事業計画の策定.....1
（1）旭市海業推進地域協議会委員名簿（令和７年度）.....1
（2）旭市海業推進事業計画策定の経過.....2
資料編 2 市民・市内事業者・市内高校生・漁業者へのアンケート調査.....3
（1）アンケート調査概要.....3
（2）市民アンケート調査結果.....4
（3）市内事業者アンケート調査①結果.....9
（4）市内事業者アンケート調査②結果.....13
（5）市内高校生アンケート調査結果.....16
（6）漁業者アンケート調査結果.....21
資料編 3 ヒアリング調査（漁業者）.....26
（1）調査概要.....26
（2）発言内容一覧.....27
資料編 4 サウンディング調査（企業等）.....28
（1）調査概要.....28
（2）発言内容一覧.....29
資料編 5 海業（うみぎょう）について.....33
（1）海業の推進による地域のにぎわい創出・漁業の持続的な振興.....33
（2）水産庁による漁港施設等活用事業制度の創設.....34

資料編 1　旭市海業推進事業計画の策定

本市では、令和 5 年度に漁港漁場整備法等の一部改正により、漁港施設の利用に係る規制緩和が行われたことを契機に、飯岡漁港周辺での海業を推進し、未活用の地域資源の利用を図るため、令和 6 年度に「旭市海業推進地域協議会」（以下「協議会」という）を設置し、会議が開催された。

（1）旭市海業推進地域協議会委員名簿（令和 7 年度）

（敬称略）

No.	役職名	所属	職名	氏名
1	会長	千葉工業大学	教授（学識経験者）	鎌田 元弘
2	副会長	海匝漁業協同組合	代表理事組合長	伊藤 勝康
3	委員	海匝漁業協同組合	副組合長	遠藤 勝信
4		海匝漁業協同組合	参事	長谷川 正志
5		海匝漁業協同組合（旋網船団）	船団長	實川 重利
6		海匝漁業協同組合（旋網船団）	－	芳野 清貴
7		海匝漁業協同組合（しらうお船団）	船団長	林 和彦
8		海匝漁業協同組合（しらうお船団）	－	伊藤 友門
9		海匝漁業協同組合（刺網船団）	船団長	大椛 孝一
10		海匝漁業協同組合（刺網船団）	会計	伊藤 進
11		海匝漁業協同組合（貝捲船団）	船団長	伊藤 善久
12		海匝漁業協同組合（貝捲青年部）	部長	椎名 潤一
13		海匝漁業協同組合（ライフガードレディース）	－	近藤 美喜
14		海匝漁業協同組合（遊漁船組合）	組合長	梅花 武幸
15		飯岡釣船組合	会長	実川 浩司
16		飯岡釣船組合	副会長	佐藤 純基
17		旭水産加工業協同組合	代表理事組合長	伊藤 克幸
18		旭市商工会	会長	平野 陽一
19		旭市商工会（女性部）	部長	飯島 菊枝
20		旭市観光物産協会（飯岡支部）	支部長	宮内 保
21		飯岡地域市民代表（飯岡地域区長会）	令和6年度会長	加瀬 正彦
22		旭市民代表（いいおか潮騒ホテル）	総務部長（公募委員）	斉藤 珠紀
23		旭市民代表（有限会社土屋水産）	代表取締役（公募委員）	土屋 直美
24		千葉県議会	県議会議員	高橋 秀典
25		旭市議会	市議会議員	島田 恒
26		千葉県銚子水産事務所	所長	末永 望
27		千葉県銚子漁港事務所	所長	土屋 健夫
28		千葉県漁業協同組合連合会	専務理事	髙梨 義宏
29		旭市企画政策課	課長	榎澤 茂
30		旭市商工観光課	課長	金杉 高春
31		旭市農水産課	課長	伊藤 弘行

（2）旭市海業推進事業計画策定の経過

時期	会議等の内容
2024年10月3日	**第1回旭市海業推進地域協議会** ＜議題＞ ・海業について ・飯岡漁港の活用について
2025年1月17日	**第2回旭市海業推進地域協議会** ＜議題＞ ・海業の推進に取り組む地区の募集について ・飯岡漁港の活用について ※PPP（公民連携）に関する講演会を開催
2025年3月19日	**第3回旭市海業推進地域協議会** ＜議題＞ ・旭市海業推進事業計画の策定について ・飯岡漁港の活用について
2025年7月30日	**第4回旭市海業推進地域協議会 ※書面開催** ＜議題＞ ・旭市海業推進事業計画の策定について ・先進地視察について ・全国・県内の先進類似事例紹介 ・サウンディング調査について ・今後のスケジュールについて
2025年8月29日	**先進地視察（千葉県内房・南房総エリア）** ＜視察先＞ ・都市交流施設 道の駅保田小学校 ・鋸南町保田漁業協同組合、漁協直営食堂ばんや ・岩井富浦漁業協同組合 ・房総の駅とみうら ・夷隅東部漁業協同組合
2025年10月23日	**第5回旭市海業推進地域協議会** ＜議題＞ ・各調査および視察等の報告について ・旭市海業推進事業計画の検討状況について ・今後のスケジュールについて
2026年1月30日	**第6回旭市海業推進地域協議会** ＜議題＞ ・旭市海業推進事業計画（素案）の提示 ・今後のスケジュールについて
2026年2月3日 ～2026年2月15日	**意見公募（パブリックコメント）**
2026年3月17日	**第7回旭市海業推進地域協議会** ＜議題＞ ・パブリックコメントの結果報告 ・旭市海業推進事業計画の最終決定 ・今後の取組方針について

資料編 2　市民・市内事業者・市内高校生・漁業者へのアンケート調査

(1) アンケート調査概要

本計画の策定にあたり、市民、市内事業者および市内高校生を対象に、飯岡漁港に関する認知度や訪問目的・利用頻度などの現状を把握するとともに、海業に関する取組への関心や期待を把握するため、アンケート調査を実施した。

また、漁業者（海匝漁協組合員）を対象として、現状の漁業が抱える課題や、海業の取組に対する意向を把握することを目的に、アンケート調査を実施した。

表　アンケート調査の概要

【市民向け】

調査対象者	旭市産業まつり来場者 ➡旭市産業まつり会場において、来場者に調査票を配布し実施
調査期間	2025（令和 7）年 11 月 8 日
調査方法	調査票は会場にて直接配布し、回答は以下のいずれかの方法により回収 ➡調査票への直接記入 ➡パソコンやスマートフォン等から WEB サイトにアクセスして回答
回答件数	87 件

【市内事業者向け①】

調査対象者	旭市産業まつり出展事業者 ➡旭市産業まつり出展事業者（110 事業者）を対象に調査票を配布し実施
調査期間	2025（令和 7）年 10 月 9 日～10 月 16 日
調査方法	調査票は会場にて直接配布し、回答は以下のいずれかの方法により回収 ➡調査票に直接記入のうえ郵送 ➡パソコンやスマートフォン等から WEB サイトにアクセスして回答
回答件数	14 件

【市内事業者向け②】

調査対象者	計画対象地周辺の事業者 ➡ホテル事業者・飲食事業者（全3事業者）を対象に実施
調査期間	2025（令和 7）年 10 月 6 日
調査方法	調査票を用いて直接ヒアリング調査を実施
回答件数	3 件

【市内高校生向け】

調査対象者	市内高校生（県立旭農業高校・県立東総工業高校） ➡上記 2 校の全校生徒を対象に調査票を配布し実施
調査期間	2025（令和 7）年 9 月 30 日～10 月 10 日
調査方法	調査票は各高校にて直接配布し、回答は以下の方法により回収 ➡パソコンやスマートフォン等から WEB サイトにアクセスして回答
回答件数	153 件

【漁業者向け】

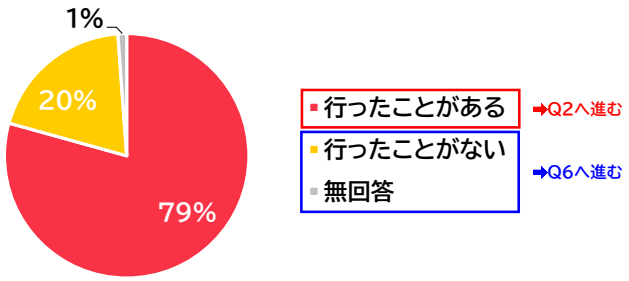
調査対象者	漁業者（海匝漁業協同組合所属の組合員） ➡組合員 90 名を対象に調査票を配布し実施
調査期間	2025（令和 7）年 11 月 1 日～11 月 14 日
調査方法	調査票は直接配布し、回答は以下のいずれかの方法により回収 ➡調査票に直接記入のうえ郵送 ➡パソコンやスマートフォン等から WEB サイトにアクセスして回答
回答件数	24 件

（2）市民アンケート調査結果

（1）飯岡漁港について

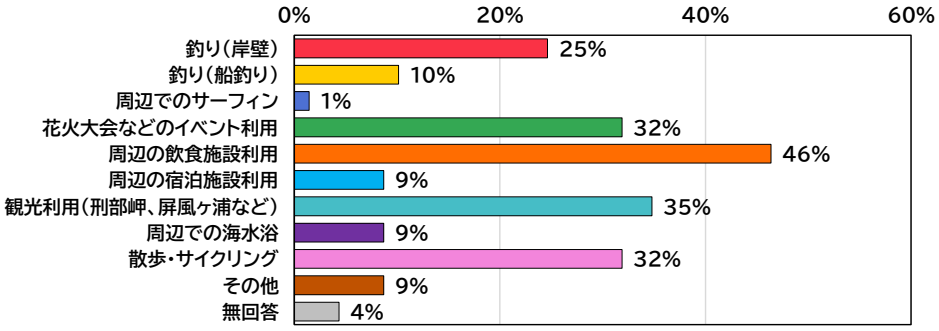
・回答者のうち、約 79%が飯岡漁港に行ったことがあると回答しており、一定数以上の利用があると考えられる。

Q1：飯岡漁港についてお聞かせください。（1 つだけ選択）



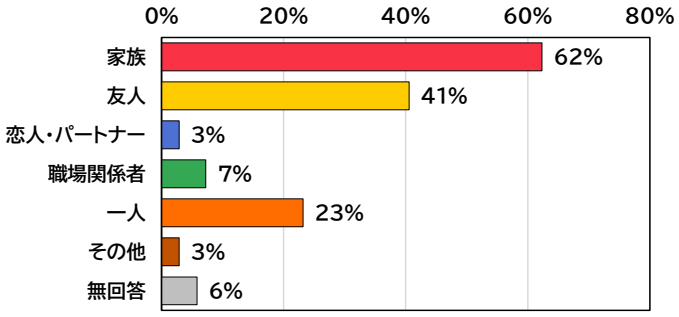
・Q1で「行ったことがある」と回答した回答者のうち、約 46%が周辺の飲食施設利用であった。また、約 32%が花火大会などのイベント利用と回答している。このことから、利用者は日常的な用途よりも、飲食やイベントといった利用が多いと考えられる。

Q2：Q1で「行ったことがある」と回答した方にお聞きします。飯岡漁港を利用した目的をお聞かせください。（該当するものすべてを選択）



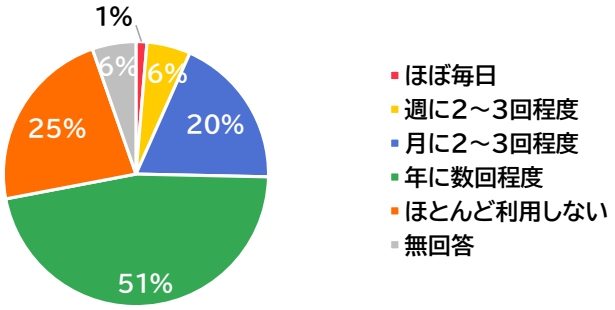
・Q1 で「行ったことがある」と回答した回答者のうち、家族との利用が約 62%と最も多く、一定の利用があることがうかがえる。

Q3：Q2で回答した利用目的について、どなたと一緒に利用されましたか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



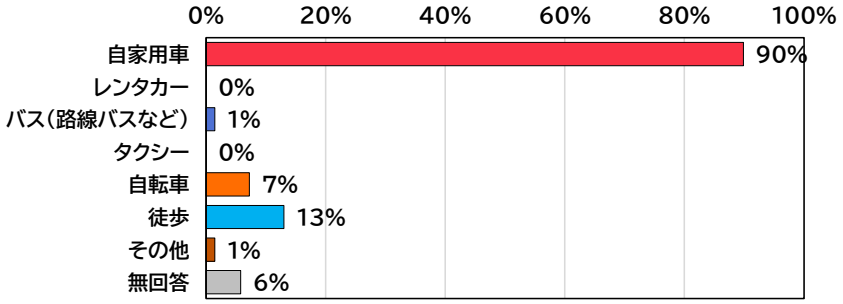
・利用頻度については、「年に数回程度」と回答した人が最も多く、約 51%であった。このことから、現状ではイベント時の利用が中心であると考えられる。

Q4：飯岡漁港の利用頻度についてお聞かせください。（1つだけ選択）



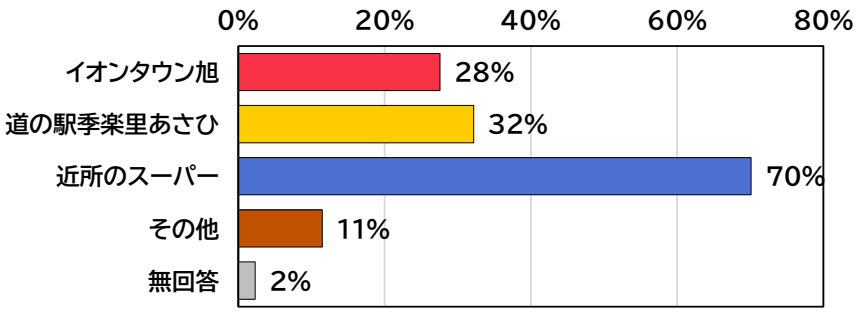
・飯岡漁港へのアクセス手段は約90%が自家用車であることから、駐車場の整備・設置について検討が必要であると考えられる。

Q5：飯岡漁港のアクセス手段についてお聞かせください。（該当するものすべてを選択）



・新鮮な魚介類を購入する施設として、約 70%が「近所のスーパー」を利用しており、「道の駅季楽里あさひ」の利用は 32%であった。このことから、漁港ならではの強みを活かすことで、購買需要の取り込みが見込まれる。

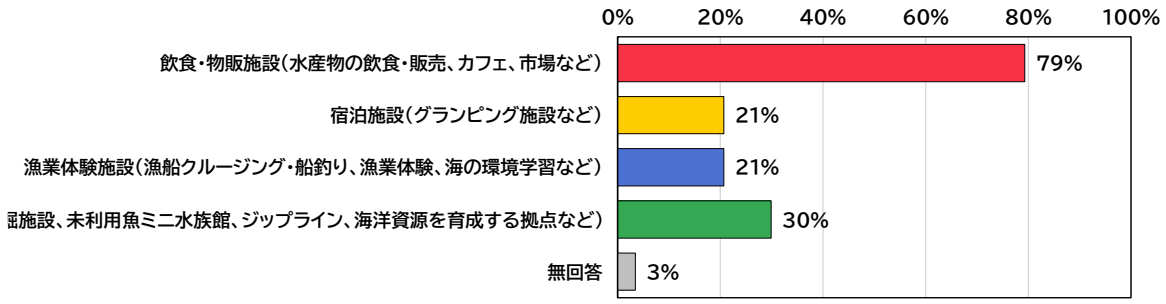
Q6：新鮮な魚介類を購入する場合どの施設（販売店）で購入しますか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



（2）ご自身（漁業者）の事業構成や新規事業（海業など）のニーズについて

・検討している 4 つの事業のうち、回答者の約 79%が「飲食・物販施設を利用したい」と回答しており、本事業は今後の整備において優先度が高い事業であることが示唆される。

Q7：Q7： 飯岡漁港において現在検討している海業は下記の 4 つ事業の導入を想定しています。あなたが利用したいと思う施設をお聞かせください。（該当するものすべてを選択）

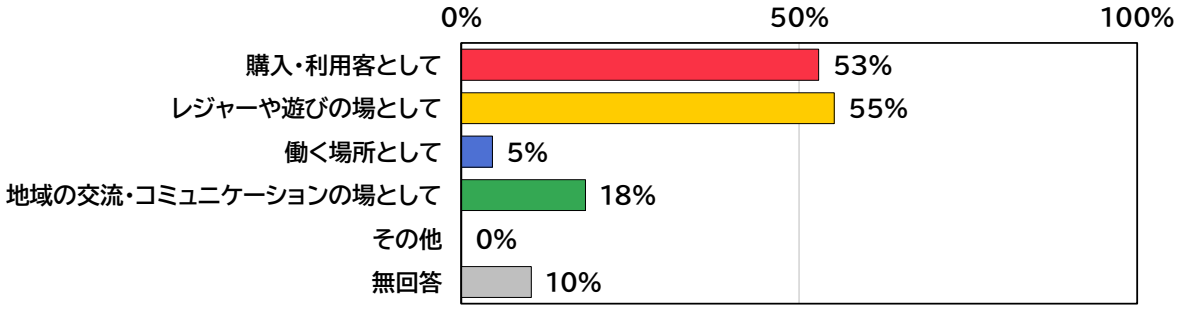


Q8：Q7 の施設以外で、あなたが利用したいと思う施設についてお聞かせください。（自由回答）

・キャンプ　・家族と気軽に車で訪れる施設　・孫たちと楽しめる施設　・釣り堀用イカダ設置
・安価で品数の多い商品を扱う施設　・浜焼き　・スーパー　・海鮮食べ放題を提供する飲食施設
・気軽に安価で泊まり、手ぶらで利用でき、浜焼きが楽しめる施設　・屋台が多数並ぶ場所
・温泉や釣り場を備え、現地で海鮮を楽しめる施設　・体づくりができる場所
・みなと公園の整備、漁港の清掃

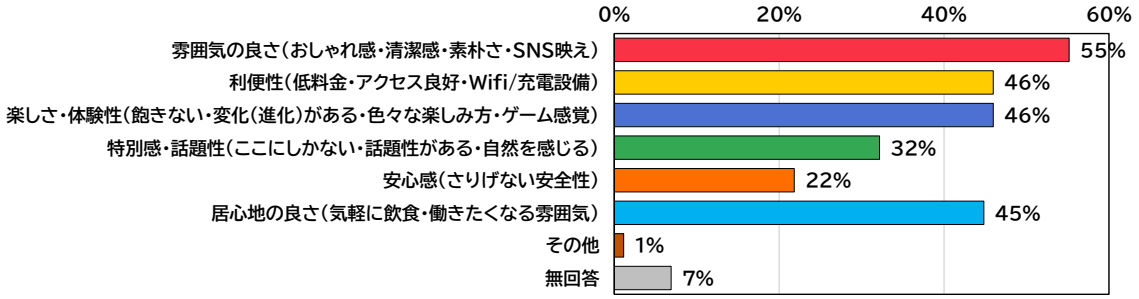
・施設の利用については、「レジャーや遊びの場として」が約 55%と最も多く、次いで「購入・利用客として」が約 53%を占めていた。

Q9：Q7で選んだ施設をどのような形で利用してみたいですか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



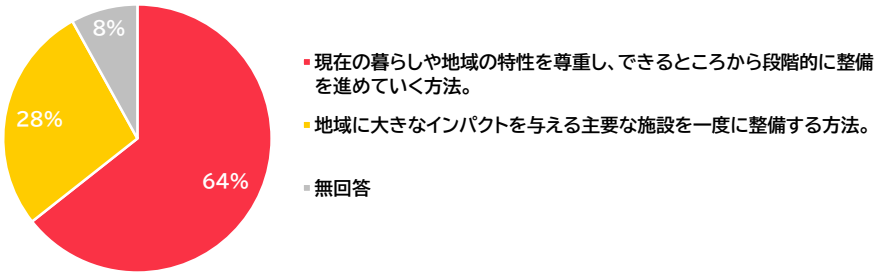
・行きたくなると感じる施設の条件については、「雰囲気の良さ」が回答者の約 55%と最も多く、また「利便性」、「楽しさ・体験性」、「居心地の良さ」が45%以上を占めていた。このことから、雰囲気づくりや体験性、利便性を備えた魅力的な空間づくりが求められると考えられる。

Q10： あなたが「思わず行きたくなる」と感じる施設の条件についてお聞かせください。（該当するものすべてを選択）



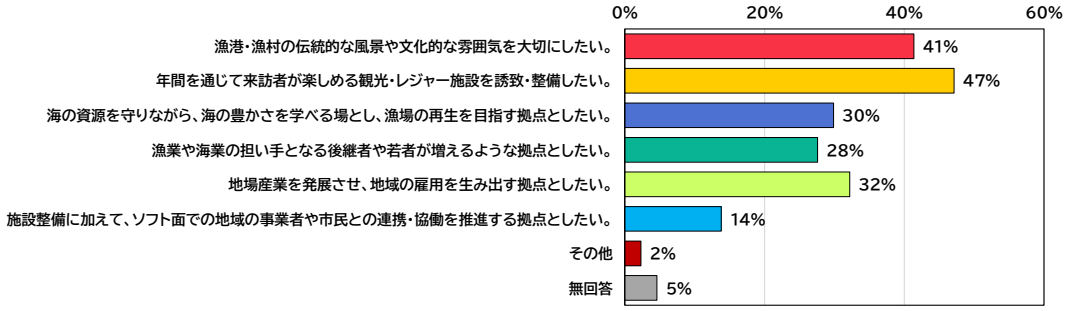
・海業の整備の進め方について、回答者の約 64%が、「現在の暮らしや地域の特性を尊重し、できるところから段階的に整備を進めていく方法。」が望ましいと考えている。飯岡漁港の魅力を活かしながら、無理のない形で事業を進めていくことが求められる。

Q11：飯岡漁港における今後の海業整備の進め方について、どちらの方針が望ましいとお考えですか、お聞かせください。（1 つだけ選択）



・回答者のうち、約 47%が「年間を通じて来訪者が楽しめる観光・レジャー施設を誘致・整備したい。」と回答している。また、「漁港・漁村の伝統的な風景や文化的な雰囲気を大切にしたい」との意見が約 41%であった。このことから、観光・レジャー性と地域の文化的価値の両立が求められると考えられる。

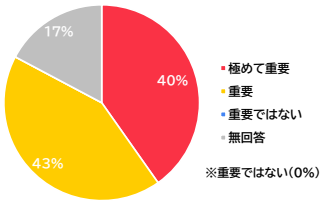
Q12：海業として飯岡漁港をどのように整備すると良いか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



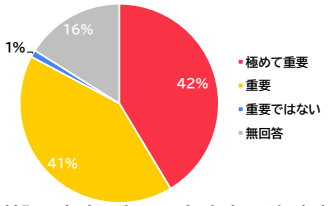
・飯岡地区の将来像について、すべての設問で、78%以上が重要であると考えていた。いずれの方向性についても住民の期待が高く、バランスを取りながら計画を進めることが求められる。

Q13：飯岡地区の将来像についてお聞かせください。（1つだけ選択）

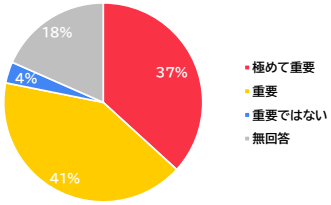
① 海業をきっかけに、市の中心部・農業エリアと連携し、旭市の新たな拠点とする。



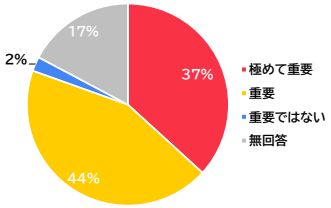
② 九十九里海岸でのレジャーや、刑部岬や屏風ヶ浦などの景観を巡って楽しめるエリアとする。



③ 飯岡漁港の海業と飯岡地区の便利で住みやすいまちづくりを一体的に進める。

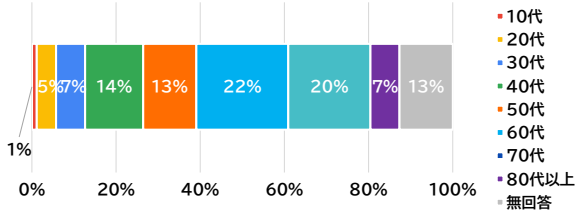


④ 犬吠埼（銚子市方面）から九十九里海岸（一宮町方面）に至る広域計画の中核に位置づける。

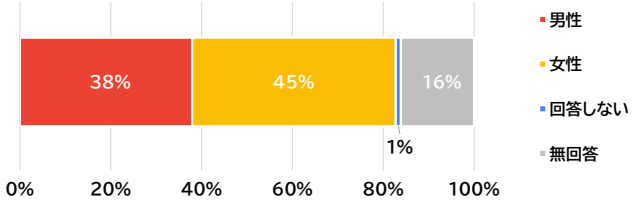


（3）あなたご自身について

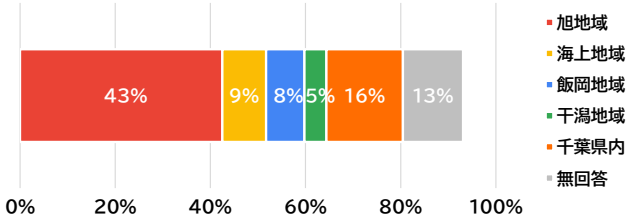
問1　年齢



問2　性別



問3　お住まいの地域

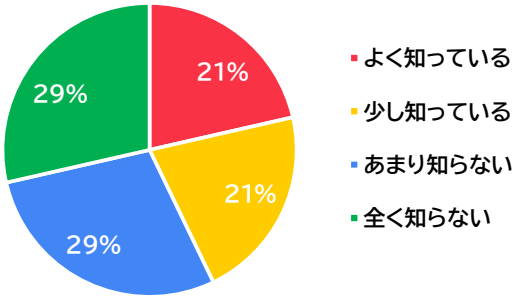


（3）市内事業者アンケート調査①結果

（1）飯岡漁港について

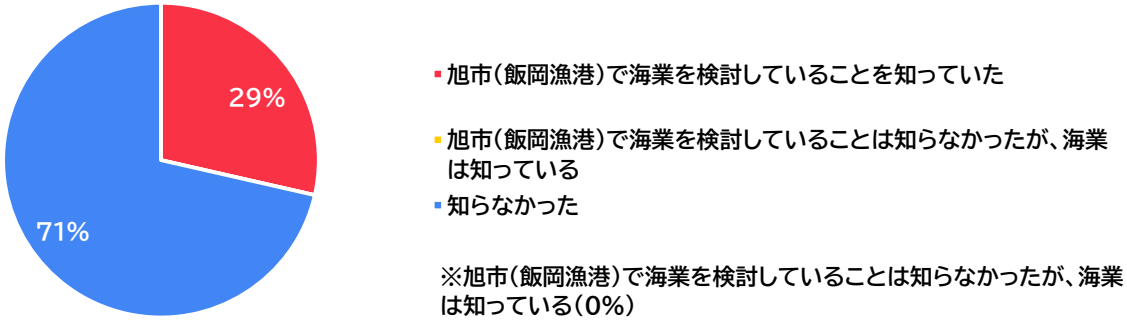
・回答した事業者のうち、飯岡漁港について約 42%が「知っている」と回答しており、そのうち約 21%は「よく知っている」と回答していた。

Q1：飯岡漁港についてどの程度ご存じですか、お聞かせください。（1 つだけ選択）



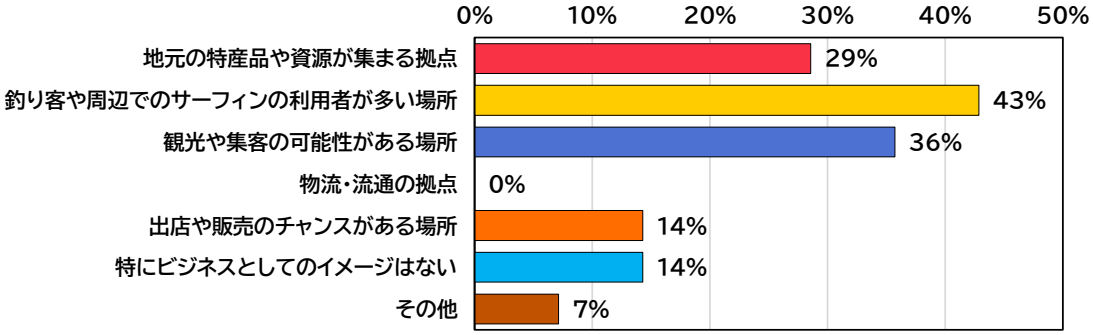
・海業（うみぎょう）について、回答者の約 29%が旭市（飯岡漁港）で海業を検討していることを知っており、「海業」がまだ広く認知されていない段階にある。

Q2：「海業（うみぎょう）」についてご存じでしたか、お聞かせください。（1 つだけ選択）



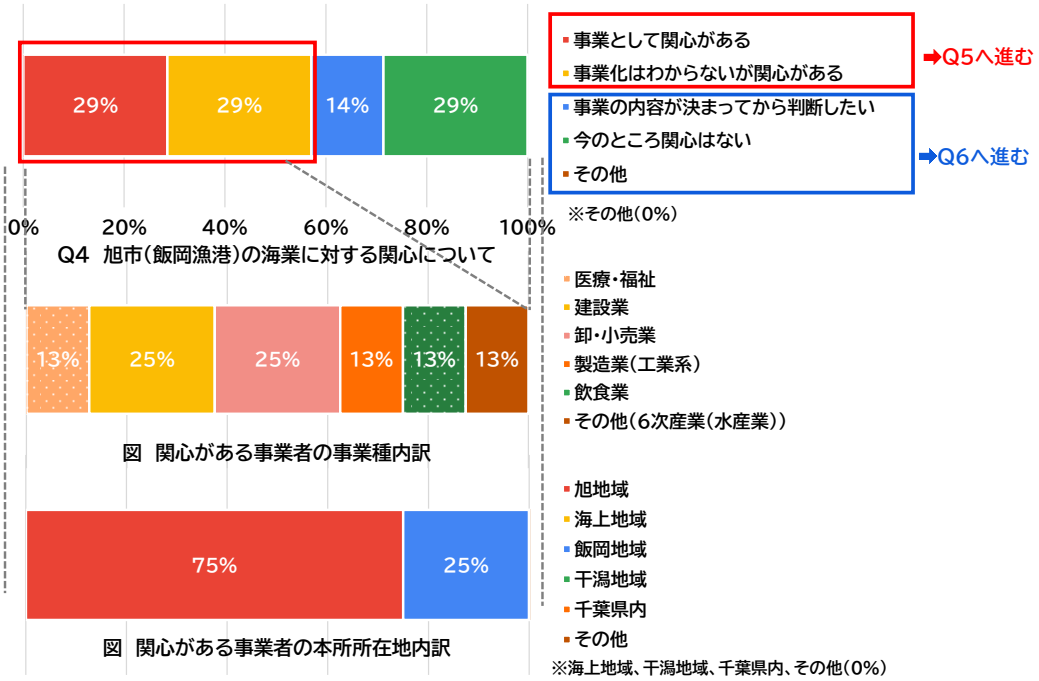
・飯岡漁港のイメージについて、約 43%が「釣り客や周辺でのサーフィンの利用者が多い場所」と回答しており、約36%が「観光や集客の可能性がある場所」と感じていた。一定数の回答から、飯岡漁港のポテンシャルがあることが読み取れる。

Q3：飯岡漁港についてどのようなイメージをお持ちですか。（該当するものすべてを選択）



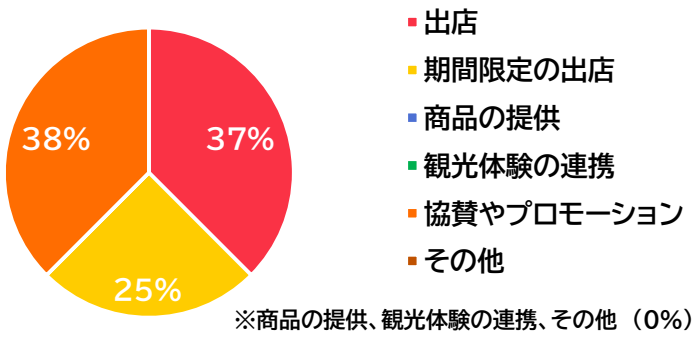
・旭市（飯岡漁港）の海業について、回答者の約 71%が事業について、おおむね前向きに考えており、一定の参画意欲が見込まれる。

Q4：旭市（飯岡漁港）の海業について関心がありますか、お聞かせください。（1つだけ選択）



・旭市（飯岡漁港）の海業について関心がある回答者のうち、約 37%が出店に、約38%が協賛やプロモーションに関心があると回答していた。この結果より、一定の参入意欲が確認できる。

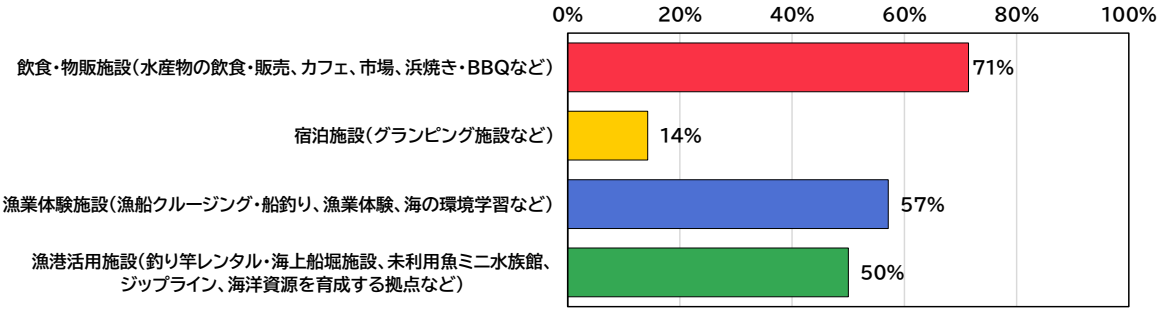
Q5：どのような形での関わりに関心がありますか、お聞かせください。（1つだけ選択）



【内訳】
・出店：製造業（工業系）、医療・福祉、その他（6 次産業（水産業））
・期間限定の出店：卸・小売業
・協賛やプロモーション：建設業、飲食業

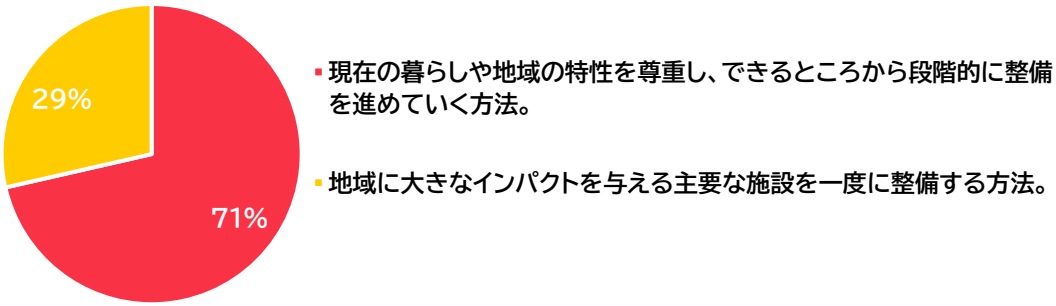
・旭市（飯岡漁港）の海業について現在検討している 4 つの事業導入のうち、最も多かったのは「飲食・物販」で、回答者の約 71%を占めた。この結果から、事業者から見ても「飲食・物販施設」は需要の高い分野であると考えられる。

Q6：飯岡漁港で現在検討している海業について、4 つの事業導入を想定しています。推進すべきだと思う事業はありますか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



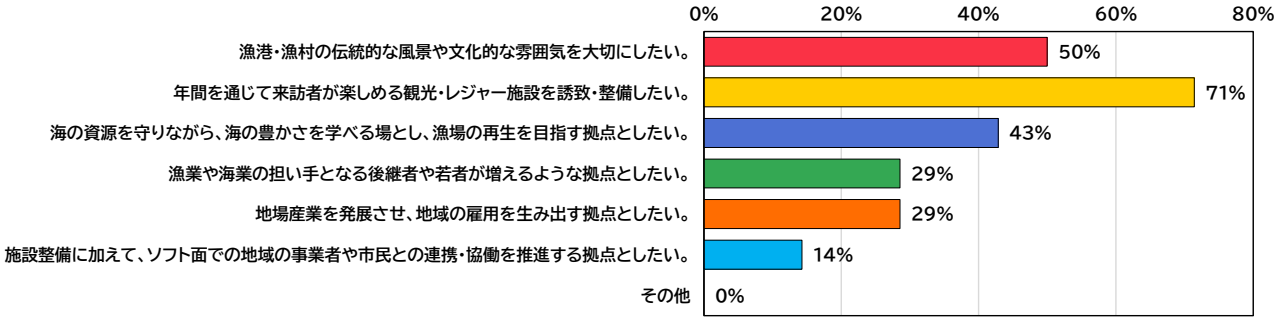
・今後の海業整備の進め方について、回答者の約 71%が「現在の暮らしや地域特性を尊重し、できるところから段階的に整備を進めていく方法」が望ましいと考えている。地元の良さを生かしつつ、事業を着実に推進していくことが重要である。

Q8：飯岡漁港における今後の海業整備の進め方について、どちらの方針が望ましいとお考えですか、お聞かせください。（1 つだけ選択）



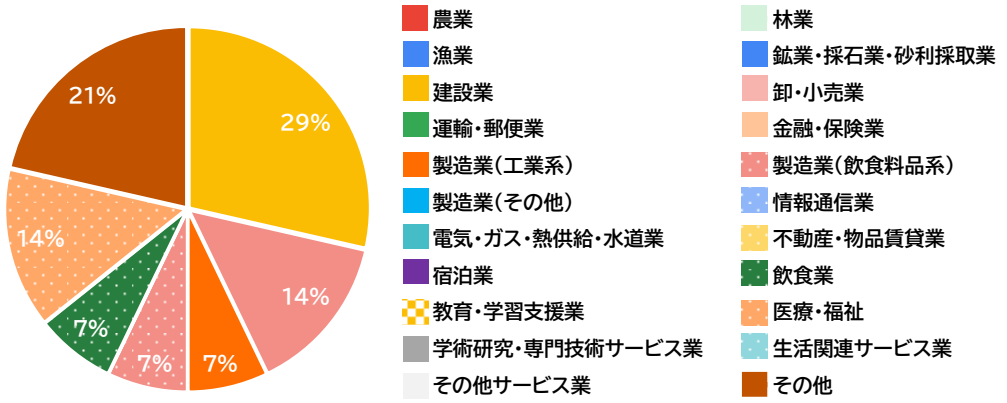
・回答者の約 71%が「年間を通じて来訪者が楽しめる観光・レジャー施設を誘致・整備したい。」と回答しており、さらに「漁港・漁村の伝統的な風景や文化的な雰囲気を大切にしたい。」との回答も過半数を占めている。これらの結果から、飯岡漁港の地域特性や景観を生かした整備が求められている。

Q9：海業として飯岡漁港をどのように整備すると良いか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



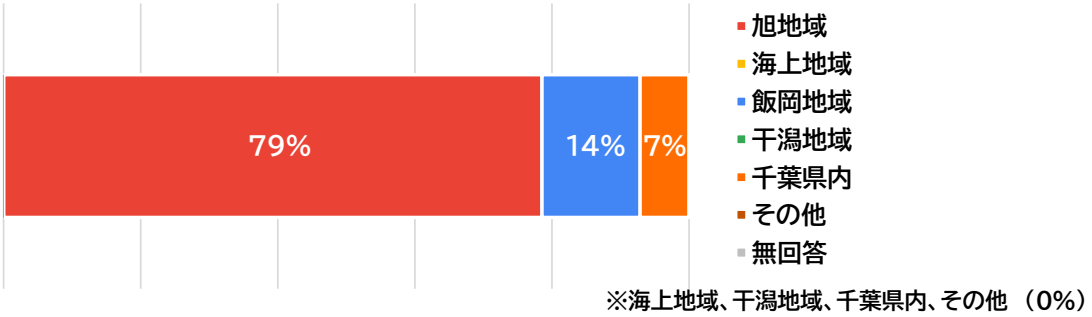
（2）貴事業所・貴団体について

問1　事業の種類



※農業、漁号、運搬・郵送業、製造業（その他）、電気・ガス・熱供給・水道業、宿泊業、教育・学習支援業、学術研究・専門技術サービス業、その他サービス業、林業、鉱業・採石業・砂利採取業、金融・保険業、情報通信業、不動産・物品賃貸業、生活関連サービス業　（0%）

問２　本社所在地



※海上地域、干潟地域、千葉県内、その他　（0%）

問３　事業所・団体名称

・回答件数：14 件のうち7件の回答（50%）

Ex.）鎌倉商店、郡建設株式会社、カントリーハウス海辺里、ヨシダルーフ大納屋（飯岡ヤマイチ水産）　など

（4）市内事業者アンケート調査②結果

本調査は、市内事業者アンケート調査①で使用した資料をもとにヒアリング形式で実施したものである。以下の 3 者は、計画対象地周辺で事業を行っており、地域状況への理解が深いことから、アンケートに加え、より詳細な情報収集を目的としてヒアリングを重視した調査を実施した。ヒアリングにより得られた意見を以下に示す。

（1）飲食事業者

1）飲食事業者①

・塩害が日常生活で特に困っている。維持費もかなりかかってしまうため、海側立地であることを理由に申請すれば維持費の一部が補助されるような仕組みがあれば、役立つのではないだろうか。

・鎌倉や江ノ島、湘南は山に囲まれており人が一ヶ所に集まりやすいが、飯岡はそうした地形ではなく、「観光」というよりもサーフィンや釣りを本格的に楽しみに来ている人が多いイメージがある。ついでに立ち寄れるような場所が少なく、また飯岡まで来てまでやることではないものも多いため、車を持っていないと訪れにくいのではないか。しかし、既存の観光地を真似るだけでは一過性のものになってしまうのではないだろうか。せっかくの地元の良さも失われてしまう。

・地元の良さとして、少し強面で真っ黒に日焼けしたサーファーや漁師の方がいたり、ハーレーに乗っている人、子ども、大きな犬がいたりと、さまざまな人が混在している雰囲気が、逆に「かっこいい」と感じられると考える。そうした方々の協力を得ることができれば、長く続く地元の活性化につながると思う。しかし、その方々に協力をお願いしようとしても、「自己満足でやっている」「見せ物ではない」と距離を置かれることも多い。そのため、いっそのこと外部から人を呼び込み、今の飯岡に定着した方がフットワークが軽く、協力を得やすいのではないかという印象もある。

・飲食事業者①が関わっている地元の方々は、自分たちのやっていることに強いプライドを持っており、外から口を出してくる人にはあまり関心を示さない場合が多く、怖いと感じる方も少なくない。しかし、自分から飛び込んで関わろうとすると、思っていたよりも優しい方が多いという。実際、現在の店舗を建てようとして近所の方々に声をかけた際には冷たい対応を受けたが、実際に建てて店を開き、会話を重ねる中で、次第に優しく接してもらえるようになった経験がある。

・飯岡には、ぜひ一発屋で終わらない、積み重ねによって成長していく「パワーアップ型」の地域になってほしい。

2）飲食事業者②

・「地産消×フォト」は地域の強みになり得ると考えられる一方で、他の観光地との差別化は容易ではない。
・飯岡・三川周辺の飲食店では、従業員の高齢化が進んでおり、後継者不足が課題となっている。年々、事業継続への意欲が低下している事業者も見られる。
・観光客の増加自体は歓迎されているものの、人手不足のため十分に対応できず、必ずしも前向きに受け止められていない状況がある。
・漁業体験については、今後「海業」の取組として実施することが望ましい。近年は魚の水揚げ状況が良好であり、地域の強みとして活かせる可能性がある。
・出店を促進するにあたっては、市の助成制度の有無が大きく影響する。海側への施設整備も一案であるが、災害リスクを考慮すると、空き地を活用したキッチンカー出店など柔軟な形態も有効ではないか。
・地方であっても賃料が高いエリアは存在し、初期費用が大きい場合、若年層は参入を敬遠する傾向がある。
・飯岡漁港周辺の施設は比較的整備されており、清潔感のある施設が多い。

（2）ホテル事業者

・約 10 年前、市営の国民宿舎は旭市外に本社を置く建設業者が入札で落札し、15 年契約のうち残り 5 年となっている。建物の躯体は築 50 年を迎えるため、その先の活用については現時点では検討していない。海業への参入についても、現段階では判断材料が少ない。一方、海業施設は台風被害などにより維持管理が必要となるため、建設業者が関与することは有効ではないか。
・企業が海業の PPP に参入するかどうかは、単に施設が整備されるという理由だけでは判断しにくい。この地区に確実に人が集まるという実感が得られれば、参入判断はしやすくなる。
・近年の不漁の影響もあり、漁業者の間では海業への関心が薄れてきているように感じられる。こうした状況を踏まえると、焦って大規模な施設整備を進めることは現実的ではない。
・海業を進めるにあたっては、漁業者の負担を増やさない工夫が不可欠である。新たな負担が生じる計画では賛同を得にくく、漁業者やその家族の生活に寄り添った進め方が重要である。
・施設整備を前提とするのではなく、現在ある空間を公園的に活用し、豊かで魅力的な場として使い始めることが現実的ではないか。散歩コースやベンチの設置など、身近な取組から始め、必要に応じて施設整備を検討していくのはどうか。
・まずは「できること」から取り組み、地元の利用や賑わいが生まれる様子を見ながら、観光客が徐々に増えていく。その流れを受けて企業が参入を検討するという段階的なプロセスが重要である。
・他地域の海業事例を視察した結果、飯岡エリアは非常に広く、徒歩だけで回るのは難しい。
・視察先では、清潔でデザイン性の高いトイレが整備されており、特に女性に好まれる「清潔感」や「おしゃれさ」が重要である。
・視察した海業エリアには、水槽や調理の様子など、視覚的にワクワクする仕掛けがあり、来訪者に強い印象を与えていた。こうした「見て楽しい」要素は大きな魅力になる。
・漁業者にとっては日常的な海鮮料理であっても、来訪者にとっては漁師ならではの食べ方や「漁師飯」が特別な体験になる可能性がある。見せ方を工夫し、その場で食べられる流れをつくることで、より魅力的な体験につながる。

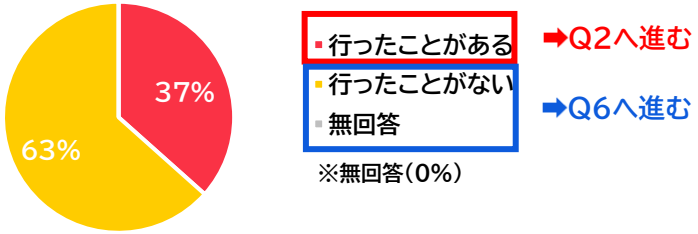
・施設を整備する場合には、施設を巡ることでどのようなストーリーや思い出が生まれるかを重視すべきである。SNS に載せてもらうこと自体を目的とするのではなく、「載せたくなる要素」が組み込まれていることが重要であり、どこにでもある施設ではなく、印象に残るコンセプトが求められる。
・例えば、海産物を購入してその場で調理してもらったり、BBQ で食べたり、購入した土産物をその場で味わえるスペースがあれば、滞在の楽しさが高まるのではないか。
・港エリアでは釣りをしている人が見られる一方、「釣り禁止」の表示が分かりにくく、どこが禁止区域なのか判断しづらいという課題がある。
・港エリアでは市民によるイベントや祭りが行われており、賑わいが生まれている。駅周辺で開催されている芸術祭と連携した取組や、市民参加型のベンチ設置・装飾イベントなどを行うことで、さらなる魅力向上につながる可能性がある。
・宿泊施設では、観光客をどこへ案内すべきかに悩むことが多い。旭市内には観光地が限られており、農業や酪農といった地域資源が観光として飯岡と十分に結びついていない。
・飯岡は「屏風ケ浦の終わりで九十九里の始まり」という立地特性を持つことから、周辺地域との回遊を前提とした広域的な視点で計画を検討するべきである。
・市内の宿泊施設では近年スポーツ合宿の利用が増えており、特にサッカー合宿が多い。正式な試合会場の誘致が難しくても、ビーチランニングなどを取り入れた特色ある合宿プログラムは提案可能である。
・エリア全体を施設配置中心で考えるのではなく、景観や場所の特性を生かし、「どのように楽しめるか」という視点でゾーニングを行うことが望ましい。
・突然の施設整備ではなく、ベンチの設置や小規模なイベントなど、人が集まるきっかけをつくり、その利用状況を観察することで来場者のニーズを把握する。その上で施設配置を検討する進め方が適切である。
・海業施設の整備には時間を要するため、それまでの間、こうした空間利用を継続することが結果的に近道になる可能性がある。企業にとっても、「他にはない飯岡ならではの特徴」が可視化されることで、出資や参入の判断がしやすくなる。

（5）市内高校生アンケート調査結果

（1）飯岡漁港について

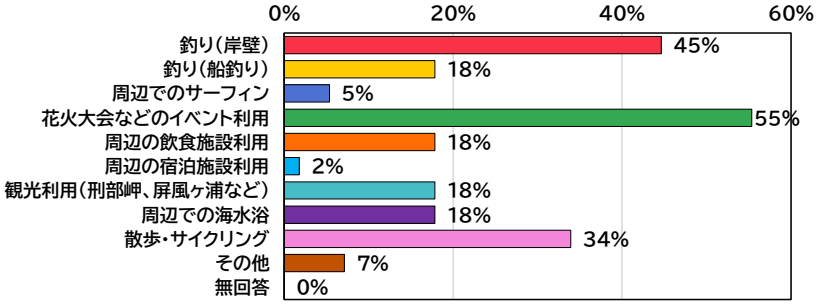
・回答者のうち、約37%が飯岡漁港に行ったことがあると回答しており、一定数の利用があると考えられる。

Q1：飯岡漁港についてお聞かせください。（1 つだけ選択）



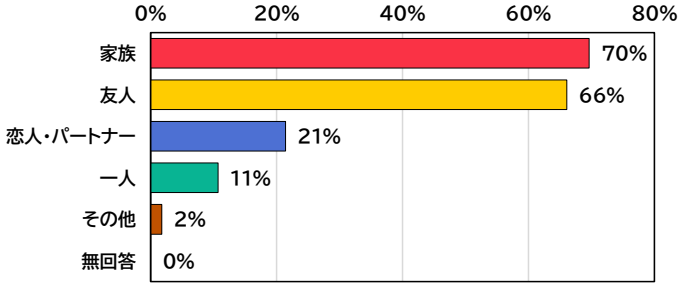
・Q1 で「行ったことがある」と回答した回答者のうち、約 55%が花火大会などのイベント利用であり、約 45%および約 18%が「釣り（岸壁）」「釣り（船釣り」での利用と回答している。このことから、現在の利用としてはイベントや釣りでの利用が多いことが考えられる。

Q2：Q1で「行ったことがある」と回答した方にお聞きします。飯岡漁港を利用した目的をお聞かせください。（該当するものすべてを選択）



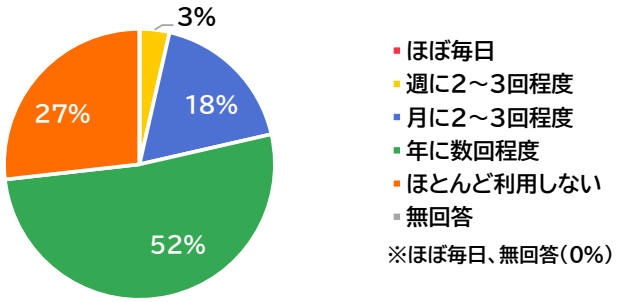
・Q1 で「行ったことがある」と回答した回答者のうち、家族や友人と利用したと回答した割合が半数以上を占めており、地域での一定の利用があることがうかがえる。

Q3：Q2 で回答した利用目的について、どなたと一緒に利用されましたか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



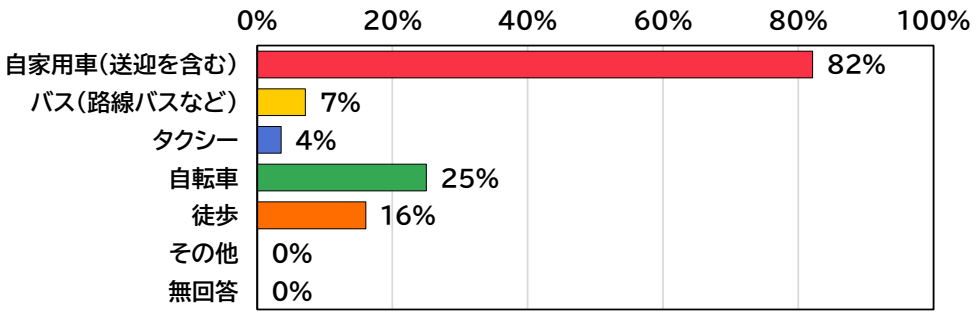
・利用頻度については、「年に数回程度」と回答した人が最も多く、過半数を占めている。このことから、現状ではイベント時の利用が中心であると考えられる。

Q4：飯岡漁港の利用頻度についてお聞かせください。（1つだけ選択）



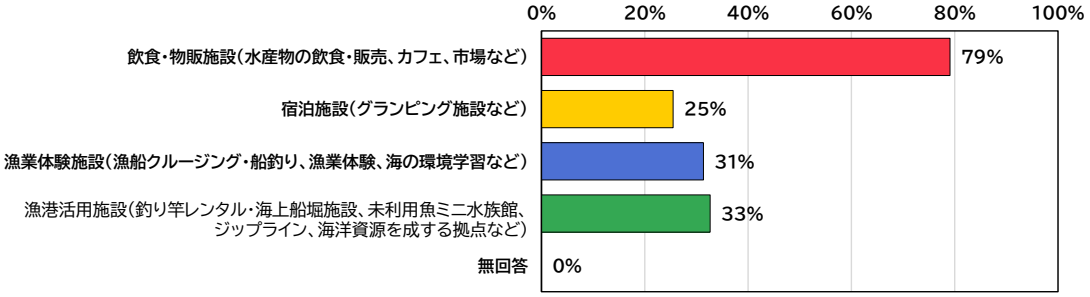
・飯岡漁港へのアクセス手段は約82%が自家用車であることから、駐車場の整備・設置について検討が必要であると考えられる。

Q5：飯岡漁港のアクセス手段についてお聞かせください。（該当するものすべてを選択）



・検討している 4 つの事業のうち、回答者の約 79%が「飲食・物販施設を利用したい」と回答していた。このことから、一定の需要が見込まれると考えられる。

Q6：飯岡漁港において現在検討している海業は下記の4つ事業の導入を想定しています。あなたが利用したいと思う施設をお聞かせください。（該当するものすべてを選択）

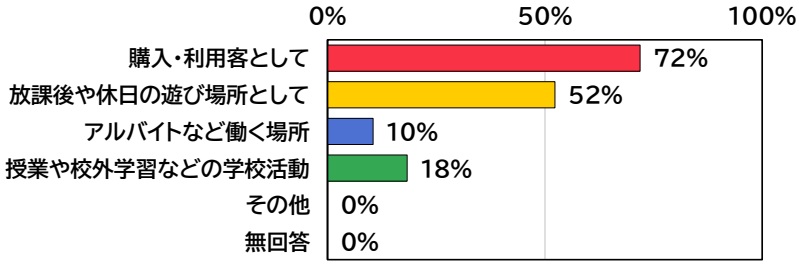


Q7：Q6 の施設以外で、あなたが利用したいと思う施設についてお聞かせください。（自由回答）

・キャンプ
・家族と気軽に車で訪れたい
・海を見ながら寝れる施設
・カフェ（家族とゆっくり休めたりできるカフェ・）
・浜辺周辺で休めるスペース
・恋人友人と気軽に泊まれる施設
・魚の下処理～調理までの方法を教える魚の料理教室
・グランピング
・訪れた人たちが楽しめる施設
・新鮮な魚が食べられる施設
・デートに最適な施設
・海鮮居酒屋
・自然を楽しみながら体験できる場所や施設
・リユースショップ
・水族館
・旭市の野菜と畜産　水産を組み合わせた料理が提供される飲食施設
・スキューバダイビング
・獲れたての魚を食べれる飲食店

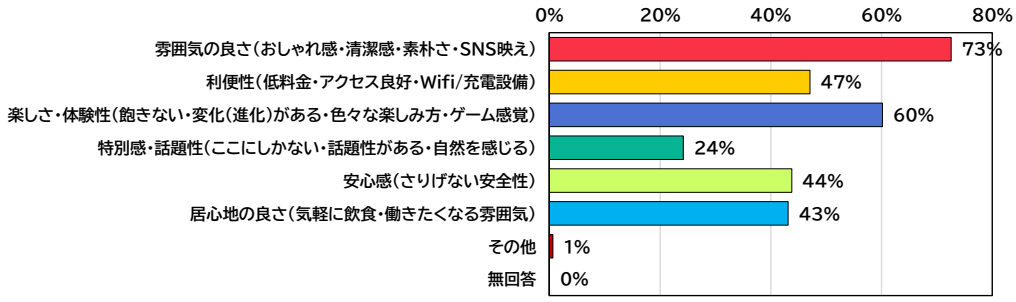
・施設の利用については、「購入・利用客として」が約 72%と最も多く、次いで「放課後や休日の遊び場所として」が約 52%を占めていた。このことから、海業として検討しているコンテンツについて、若い世代による一定の利用が見込まれると考えられる。

Q8： Q6 で選んだ施設をどのような形で利用してみたいですか、お聞かせください。
（該当するものすべてを選択）



・行きたくなると感じる施設の条件については、「雰囲気の良さ」が回答者の約 73%と最も多く、また「楽しさ・体験性」も約 60%と過半数を占めていた。これらの結果から、雰囲気の良い施設や、体験性のある施設への一定の需要があると考えられる。

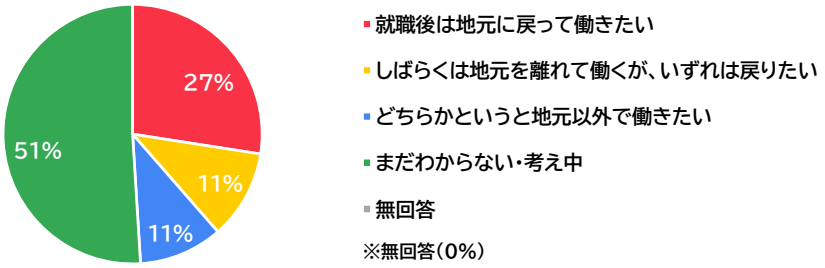
Q9： あなたが「思わず行きたくなる」と感じる施設の条件についてお聞かせください。
（該当するものすべてを選択）



（2）将来の進路と地元との関わりについて

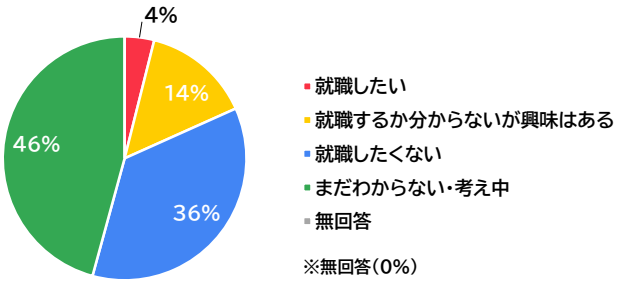
・約 38%が「いずれは地元に戻って働きたい」と回答しており、海業においても将来的に担い手を確保できる可能性があると考えられる。

Q10：高校または大学卒業した後、または他地域で一定期間就職した後に、就職先として、故郷（旭市・現在お住まいの地域）に戻りたいと思いますか、お聞かせください。（1つだけ選択）



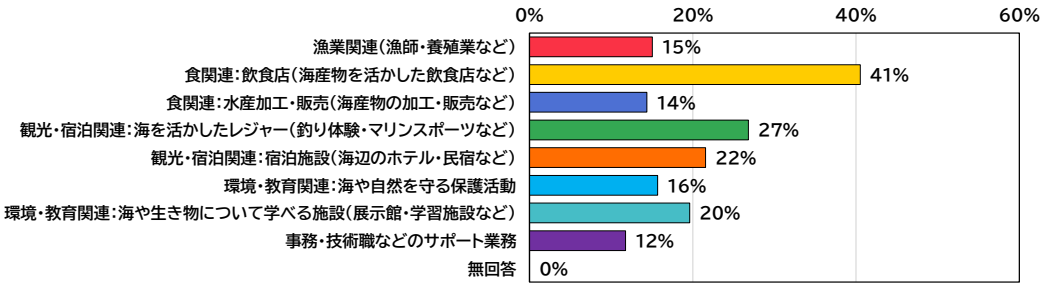
・地元の「漁業」や「海業」に関わる仕事に就きたいと関心がある人は約 18%であり、「まだわからない・考え中」と回答した人が約 46%であった。このことから、今後の情報発信や魅力発信次第で担い手が増える可能性があると考えられる。

Q11：もし旭市や旭市周辺の市町で就職するとしたら、地元の「漁業」や「海業」に関わる仕事に就きたいと思いますか、お聞かせください。（1つだけ選択）



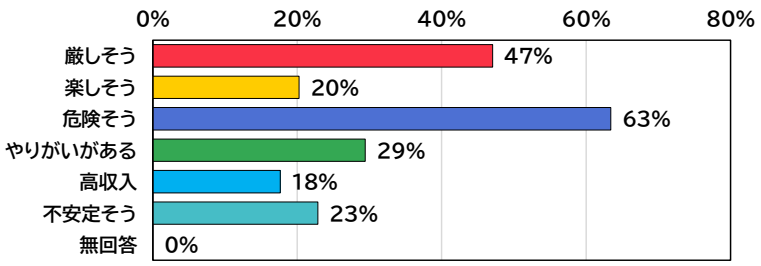
・回答者のうち約 41%が飲食店への就職に関心を示していた。次いで、海を生かしたレジャーが約 27%を占めており、海業分野においても多様な職種への関心が一定程度見込まれる。

Q12：旭市の海業でアルバイトや就職をするとしたら、どのような分野に関心がありますか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



・漁業の仕事については、約 63%が「危険そう」と回答しており、海業に関する仕事の実態や魅力が十分に伝わっていない可能性がある。一方で、「楽しそう」と回答した割合も約 20%あり、一定の関心があることもうかがえる。

Q13：漁業の仕事についてどのようなイメージを持っていますか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



Q14：その他、飯岡漁港での海業推進についてご意見があればお聞かせください。（自由回答）

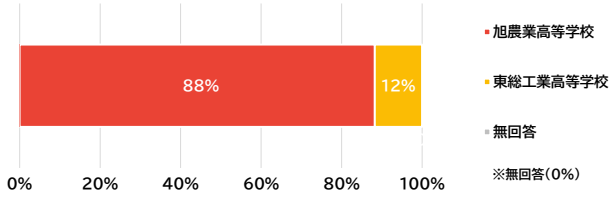
・銚子の影に隠れてしまっているため、まず知名度を上げるところから始めると良いと思う。

・楽しそう

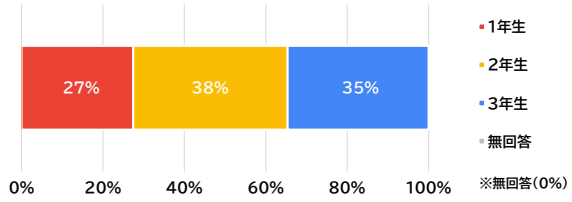
・特になし

（3）ご自身について

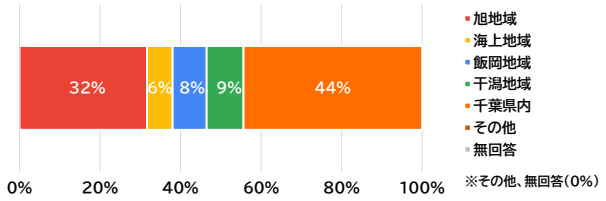
問1　学校名



問2　学年



問3　お住まいの地域



(6) 漁業者アンケート調査結果

(1) ご自身(漁業者)の事業構成について

Q1:ご所属※　※船団名など

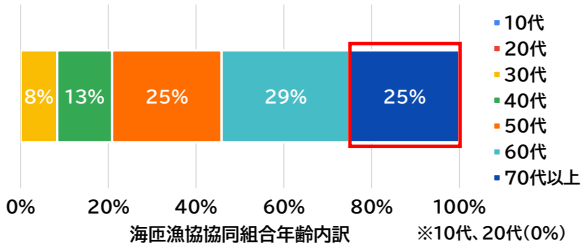
・回答件数:24 件のうち 22 件の回答(約 92%)Ex.)しらうお船団、飯岡釣船組合、貝まき船団など

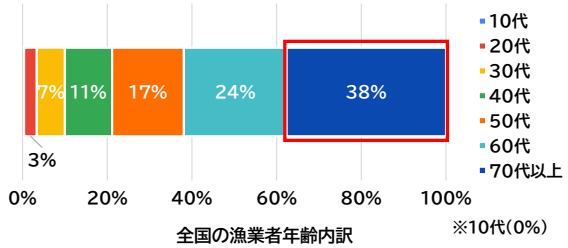
Q2:お名前

・回答件数:24 件のうち 22件の回答(約 92%)

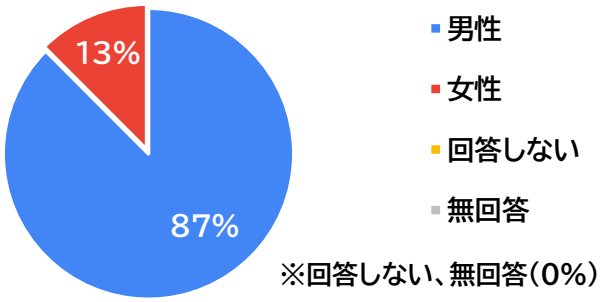
・海匝漁協の年齢層は全国の漁業者年齢よりも高齢者の割合が低いことが確認できる。

Q3:年齢



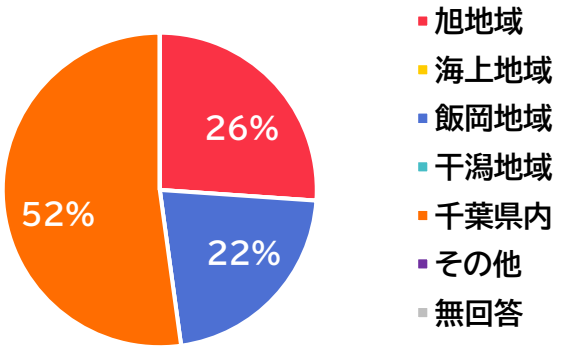


Q4:性別



※回答しない、無回答(0%)

Q5:お住まいの地域

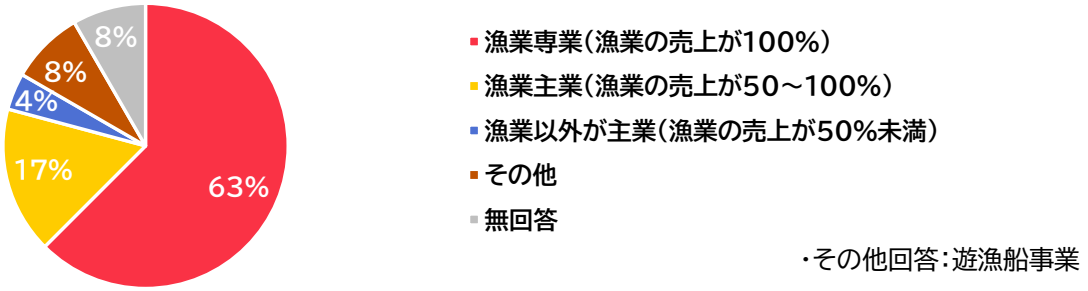


※海上地域、干潟地域、その他、無回答(0%)

・本アンケートでは、漁業を専業としている回答者が約 63%を占め、様々な事業構成の組合員から回答を得られた。また、遊漁船事業・釣り船事業者だけでなく、貝桁網漁や貝捲漁業、大中型まき網漁、白魚漁業など様々な漁業者からの意見を収集することができた。

Q 6-1：漁業の事業構成についてお聞かせください。（1 つだけ選択）

Q 6-1 ：漁業の事業構成についてお聞かせください。（1つだけ選択）



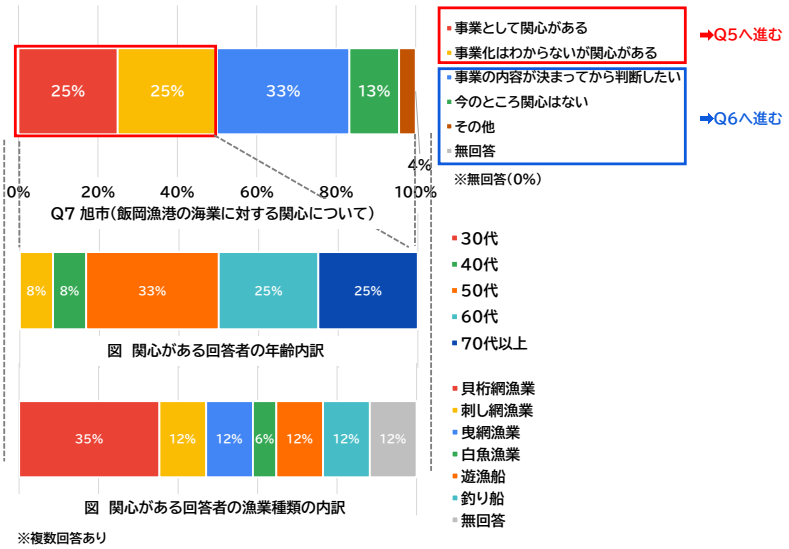
・その他回答：遊漁船事業

Q6-2： Q6-1 で選択した事業構成について事業内容と漁業で携わっている漁業種類を教えてください。（記述式）

■漁業専業（漁業の売上が 100%）
・漁業種類：貝捲漁業（はまぐり）、貝捲漁業、大中型まき網漁、釣り船、刺し網、貝桁、白魚
■漁業主業（漁業の売上が 50～100%）、漁業以外が主業（漁業の売上が 50%未満）
・漁業種類：貝桁網漁、曳縄漁、小型底引き網、釣り船
・漁業以外の事業内容：遊漁船、水産製品製造販売、ネット販売事業、鉄工業、建設土木・電気工事

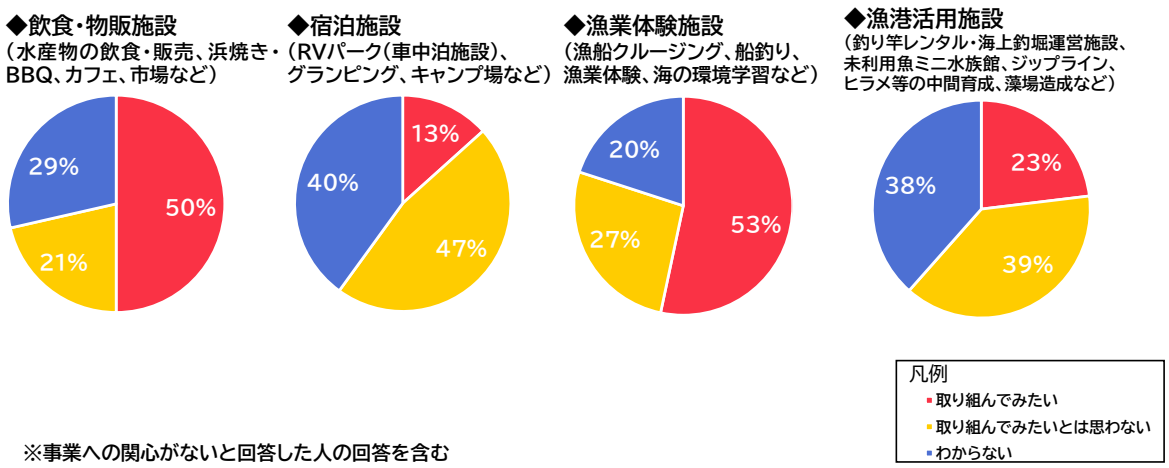
・旭市（飯岡漁港）の海業について、回答者の約 87%が事業についておおむね前向きに考えており、一定の参画意欲が見込まれる。
・また、関心があると回答した約 50%の世代の内訳は海匝漁業協同組合の内訳とほぼ同じ構成比で確認され、より若い世代への関心があることが確認された。

Q7：旭市（飯岡漁港）の海業について関心がありますか、お聞かせください。（1 つだけ選択）



・旭市（飯岡漁港）の海業に関心がある回答者※のうち、漁業体験施設が約 53%と最も取り組んでみたいと回答していた施設であった。また、飲食・物販施設も約 50%が取り組んでみたいと回答しており、この２つの検討施設での関わりが望ましいと考えられる。

Q8：飯岡漁港において現在検討している海業は下記の事業の導入を想定しています。あなたが取り組んでみたいと思う施設について、お聞かせください。（それぞれ該当するものを選択）



※事業への関心がないと回答した人の回答を含む

Q9：Q8 の事業で期待する売り上げについて、お聞かせください。（自由回答）

・10億～20億（施設売り上げ）
・1000万　　など

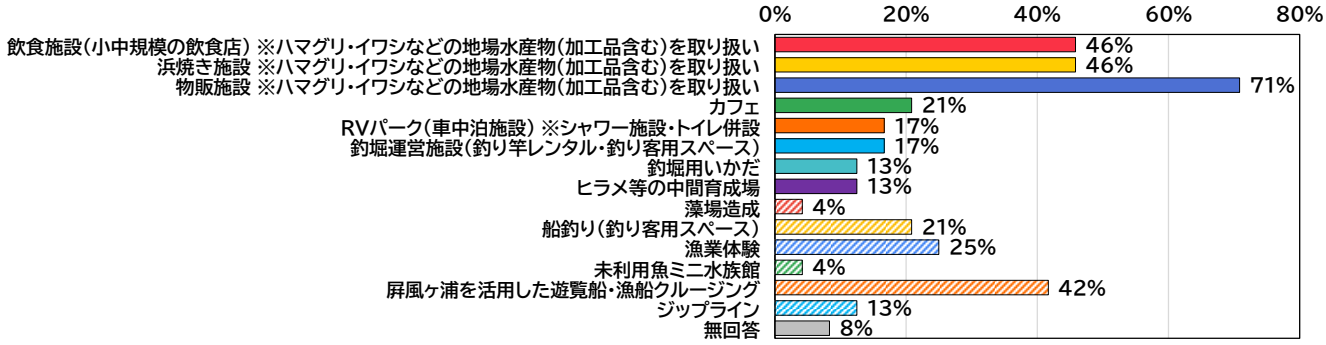
Q10：Q8 の事業以外で、あなたが海業として取り組みたいと考えている事業があれば、お聞かせください。（自由回答）

・既存漁業の魚種の研究を通じて、孵化や個体数が増えるための養殖事業。
・フリーマーケットや朝一。
・飯岡漁港の釣り船から駐車料金を取る。

（2）海業で導入を検討している施設や取組について

・飯岡漁港の海業で推進すべき事業として、回答者の約 71%が物販施設を挙げており、最も高い結果となった。次いで、飲食施設・浜焼き施設がそれぞれ約 46%を占めている。漁業者から見ても需要の高い施設や取組であると考えられる。

Q11：飯岡漁港で現在検討している海業について、下図に示す施設や取組を想定しています。推進すべきだと思う事業はありますか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



Q12：Q11 の事業以外で導入すべきと思う事業（施設・取組）についてお聞かせください。（自由回答）

・時期に取れる物の水産物朝一や水産祭など

Q13：日頃の活動（漁業を含む）の中で感じている課題、困っていること、改善したい点について、お聞かせください。（自由回答）

① 駐車場・道路環境に関する課題
・土日祝日は遊漁船利用者が多く、駐車場が不足している。
・旧漁港東側道路（坂下～岸壁荘）の左側が駐車車両で塞がり、道路片側がふさがって危険。
・駐車場の整備・増設を希望。

② ゴミ問題・環境美化に関する課題
・漁港内に点在するゴミが利用者へ悪い印象を与えている。
・港内で釣りをする来訪者によるゴミの放置が多い。
・使用していない網が放置され、ゴミ捨ての原因にもなっている。

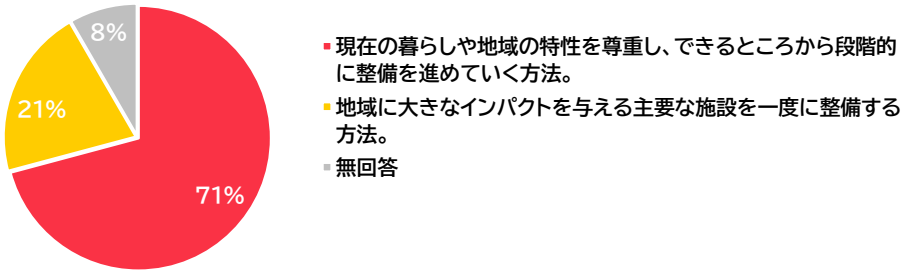
③ 海業（観光・施設整備）に関する意見・提案
・遊漁船で年間3万人以上が来訪しており、乗客の家族・親族・会社関係者を巻き込むことで集客につながる可能性がある。例：スパ・グランピング・カフェ・飲食・販売、遊覧船、ジップライン等
・釣りをしない同行者向けの施設があれば初期の海業として有力な集客策となり得る。
・「飯岡漁港に行けば宿泊・飲食・買い物・スパなどが揃っている」という評価が広まれば、釣り客の増加も期待できる。
・成田空港第3滑走路の運用開始や銚子連絡道路の開通により、さらなる来訪者増加が見込まれる。

④ 釣り利用者とのトラブル・安全面
・頻繁に釣り針が船に引っかかり危険であるため、漁船付近での釣りを禁止してほしい。

⑤ 漁港機能の設備・施設改善要望
・上架場の増設を希望。
・港全体のさらなる整備を求める。
・港の出入り口が浅く、改善を希望。

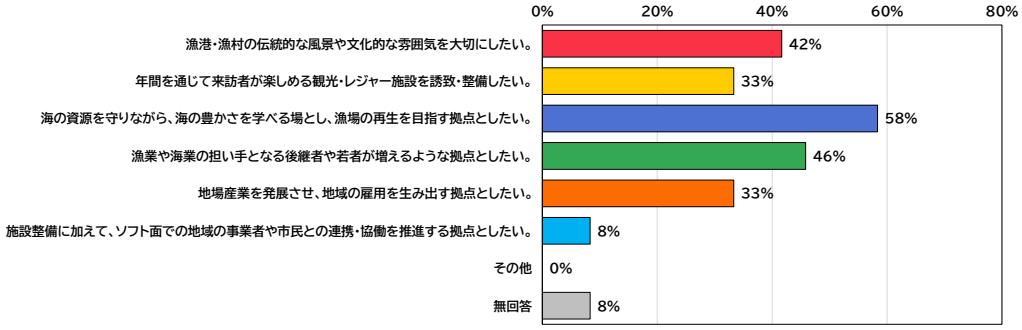
・海業の整備の進め方について、回答者の約 71%が、「現在の暮らしや地域の特性を尊重し、できるところから段階的に整備を進めていく方法。」が望ましいと考えている。飯岡漁港の良さを生かしながら事業を着実に推進していくことが重要である。

Q14：飯岡漁港における今後の海業整備の進め方について、どちらの方針が望ましいとお考えですか、お聞かせください。（1 つだけ選択）



・海業の整備の進め方について、回答者の約 71%が、「現在の暮らしや地域の特性を尊重し、できるところから段階的に整備を進めていく方法。」が望ましいと考えている。飯岡漁港の良さを生かしながら事業を着実に推進していくことが重要である。

Q15：海業として飯岡漁港をどのように整備すると良いか、お聞かせください。（該当するものすべてを選択）



Q16：その他、飯岡漁港での海業推進についてご意見があればお聞かせください。（自由回答）

・たくさんの人がまた来たいという気持ちになれる施設を作ってもらいたい。

・雑草地帯が多く、整備して駐車場をつくってほしい。

・水揚げ場を守りつつ、有効活用してほしい。

・現在の飯岡漁港ではハマグリ漁が主流で、魚数はあまり水揚げがない。もう少し魚が揚がれば、いろんな取り組みができると思う。

資料編 3 ヒアリング調査(漁業者)

(1) 調査概要

現在の漁港内における課題および海業を推進する上で想定される課題を把握することを目的として、飯岡漁港を主に利用する海匝漁業協同組合に対し、ヒアリング調査を実施した。

表3-1 ヒアリング調査(漁業者)の概要

調査対象	海匝漁業協同組合:組合員 8 名(組合長・副組合長・船団長等)
調査期間	2025(令和 7)年 10 月 15 日
調査方法	対面による実施

表3-2 ヒアリング調査(漁業者)の内容

No.	内容等
1	海業事業の方向性・進め方について
2	海業の取組内容・コンテンツについて
3	海業での運営面・安全面について

（2）発言内容一覧

（1）海業事業の方向性・進め方について

・海業の目的である「漁業者の所得向上・漁業振興」は理解できるが、漁業者への説明が十分でなく、取組内容の認知が不足している。
・アンケート調査などを通じて、漁業者の意見を早い段階で計画に反映できる仕組みを整えてほしい。
・漁業者が納得し、実益を感じられる施設整備でなければ意味がない。
・企業は収益性を見込んで参画するが、漁業者がどのように所得を得るのか、現状では仕組みが見えにくい。

（2）海業の取組内容・コンテンツについて

・ハマグリを活用した浜焼きや PR には賛成だが、店舗運営までは難しく、水産物提供などの協力が現実的である。
・飯岡漁港では釣り客が多く、その来訪者をターゲットにした飲食や販売などのコンテンツは有効だと考える。ただし、釣り客をさらに増やすことが目的ではなく、既存の来訪者が地域にお金を落とす仕組みを作ることが重要。
・魚の販売については、品質によっては全量買取が難しいため、一定の相場で安定的に買い取ってもらえる仕組みが望ましい。
・海業を活用した魚の増殖・資源回復の取組（大学と連携したラボ設置など）を検討してほしい。

（3）海業での運営面・安全面について

・現状でも釣り客が多く、漁業者と一般利用者との間でトラブルや安全上の課題が生じている。釣り客のマナー向上を求める漁業者も多い。
・漁業者の作業エリアと釣り客など海業利用者のエリアは、人や車の動線を含めて明確に区分し、ゾーニングを徹底する必要がある。
・一般来訪者が漁業作業区域に立ち入らないよう、安全に配慮した施設設計や利用ルールの整備を行うべきである。
・駐車場の有料化は、利用者減少の懸念があるため慎重に検討すべき。

資料編 4　サウンディング調査（企業等）

（1）調査概要

海業事業への事業者の参画意向や、地域資源のポテンシャル、市場性等を把握することを目的として、地元企業に加え、PPP/PFI（官民連携）事業の実績を有する企業や海業関連コンテンツに関わる企業を対象に、サウンディング調査（民間事業者の意見・アイデアを募るための調査）を実施した。

表4-1　サウンディング調査の概要

調査対象	**事業への参画や意見交換が期待できる事業者・団体 計 17 社** ・地元企業、PPP/PFI 事業経験企業、海業コンテンツに関わる企業 【内訳】 ・デベロッパー建設関連：5 社 ・小売・流通関連：2社 ・一次産業（食）関連：2 社 ・教育・体験・キャンプ関連：2社 ・旅行・観光関連：1社 ・コンサルタント：1 社 ・地域事業者（道の駅など）：3社 ・公益団体：1 団体
調査期間	2025（令和 7）年9月～10 月
調査方法	クローズ方式（非公開）による個別対話とし、対面および WEB 形式により実施

表4-2　サウンディング調査の内容

No.	内容等
1	**事業対象地（飯岡漁港）のポテンシャルや課題に関する事項** ・本事業への参画を検討するうえでの事業対象地のポテンシャルや課題について
2	**整備・取組内容（導入機能・規模・施設配置等）に関する事項** ・旭市が想定する整備や取組内容（導入機能・規模・施設配置等）に対する意見や妥当性について
3	**事業スキームに関する事項** ・民間活力導入の可能性や、参画にあたっての課題・条件について ・対応可能な業務範囲（対象施設・業務内容）、および官民の役割分担（業務・費用・リスクの分担）について
4	**本事業の参画意向に関する事項** ・本事業への参画意向の有無、参画する場合の役割や担当業務、コンソーシアム組成等について ・参画するための条件（どのような条件であれば参画しやすいか等）について
5	**事業スケジュールに関する事項** ・現時点の事業スケジュールに対する意見・要望、懸念事項等について

（2）発言内容一覧

（1）事業対象地（飯岡漁港）のポテンシャル・課題について

・事業への関心は高く、飯岡漁港は富士山や九十九里海岸を望む優れたロケーションを有している。※ロケーションで勝負できる強みを有している。
・中心となる飲食・物販施設については明確なコンセプトを設定し、しっかりとした施設づくりを行えば、首都圏からの集客も十分に見込める。
・飯岡では釣りを軸としたツーリズムのポテンシャルが高く、今後の展開余地は十分にあると感じている。
・高速道路のインターチェンジから距離があり、観光地としてのイメージも弱いため、集客は難しい印象がある。ただし、現在検討されている海業の導入機能が整えば、一定の集客効果は期待できる。現状では厳しさもあるが、工夫次第で可能性は十分にあると考える。
・首都圏からのアクセスが 2 時間を超える場合でも不可能ではないが、その場合は他地域との差別化が必要である。たとえば「真夏日が少ない」といった地域特性や、訪問動機につながる明確な体験・経験コンテンツを持つことが重要である。
・近年、夏季の海水浴需要は全国的に減少傾向にあり、レジャー産業全体として厳しい状況である。
・屏風ケ浦を含む刑部岬からの眺望は大きな観光資源であり、安全に楽しめる環境づくりを進めることで、風力発電事業などと組み合わせた SDGs 観光としての展開も期待できる。
・飯岡漁港で水揚げされた魚（ハマグリを含む）を、旭市内で直接販売できるようになれば、漁業者の収入向上や販路拡大につながると考える。また、銚子漁港を経由するとコストがかかるため、地元水揚げ・地元販売の仕組みが望ましい。
・ハマグリに限らず、他の魚種も含めて飯岡漁港で水揚げされた魚を直接流通・販売できるようになれば、魚価の向上や漁業者の収入向上・販路拡大にもつながると考えられる。
・旭市中心部からのアクセスは悪くないが、観光地としての集客には課題がある。道の駅季楽里あさひのように、地元住民中心の利用が主となる可能性が高い。
・近隣には有名な飲食店も多く、特に土日は駐車場が不足しており入れないことも多い。そのため、地元の人気店の支店などを集めた飲食エリアには一定の需要があると考える。
・飯岡漁港での釣り利用は、早朝 3 時頃に到着し昼頃に帰港する利用が多く、昼食場所に困るケースが多い。
・土日は食事場所が少ないため、飲食施設の整備には一定の需要がある。
・県内でも屈指の釣り場として認知され、釣りを核とした観光振興の可能性が高い（釣り場としてのポテンシャルもある）。
・周辺に観光コンテンツや滞在型施設が少なく、単体での集客には限界がある。地域全体としての連携が必要である。

（2）海業で導入を検討している機能・施設（取組）について

・富士山を望む眺望は大きな魅力であり、建物の階数を抑えて海の景観を確保することが重要である。津波浸水を考慮し、1 階をピロティ化（柱のみで構成する空間）、2 階以上にウッドデッキを設けて飲食スペースとし、浜焼きや期間限定のビアガーデンなどを楽しめる“魅力的なデッキ空間”を整備すると良い。
・グランピング施設への魚の卸売を行っているが、内房（鴨川など）ではグランピング需要が低下しており、閉鎖する施設も少なくない。宿泊施設としてのグランピング参入は慎重にすべき。
・海辺は風の影響を受けやすく、平均風速 10m 以上ではテント設営が困難なため休業せざるを得ない日もある。したがって、実施する場合は風に強い構造の建物やグランピング型テントなど、耐候性を考慮した施設整備が必要である。
・地元の新鮮で安価な商品を提供することが集客力につながる。事業者が過度な利益を追求せず、鮮度と価格にこだわることが重要である。
・一体的に整備する場合、飲食施設は 30～100 坪、物販施設は 200 坪、浜焼き施設は 250～300 坪（約 250 名収容）、カフェは 50～60 坪が目安であり、駐車場は最低 300 台、可能であれば 400～500 台の確保が望ましい。
・自然体験や釣り竿レンタル、釣り堀など、周辺にアクティビティがあることは大きな魅力である。過去に、伊豆市と実施したモニタツアー（実証実験）では、「トビウオすくい」を取り入れたところ、20 組分の予約が即日で埋まった経験があり、ユニークな体験コンテンツの効果を実感している。
・キャンプ場の稼働率は、20%であれば好調といえる水準であり、全国平均ではおおむね 10%程度が一般的である。ホテルなどの宿泊施設と比べると稼働率は低く、特に風の影響を受けやすい海辺沿いは、立地条件として難しい面がある。
・現状の取組内容を見ると、観光面の比重が高く、水産業の強化や漁業者の所得向上に直結する施策が見えにくい。
・現在はイワシなどの漁獲が豊漁であるが、今後は飯岡地域を含め漁獲量の減少に伴う漁業機会の減少が課題となると考えられる。そのため、漁港の未利用地を活用し、「とる漁からつくる漁」への転換を図り、ヒラメ等の陸上養殖施設を漁協として整備することは有効ではないか。
・県立銚子商業高校と海匝漁協との連携によるハマグリやシラスの加工品開発・販売など、ソフト事業での協働も可能である。
・来訪客にとっては大手チェーンよりも「漁協直売＋地元加工業者の出店」の方が魅力的である。人気施設では漁協婦人部が運営する食堂が好評で、立地が悪くても来訪があるような「強いコンテンツ」が必要である。
・県内屈指の釣り場で、釣りを核とした観光振興が期待できる中で、駐車場・トイレ・魚の洗い場などの施設整備を求める声も多い。一方で、釣り客のマナー向上や地域への還元を図るため、駐車場の有料化や釣り場利用料の導入など、収益循環の仕組みづくりが重要。
・飲食・物販エリアには、地元産品の直販や飲食機能を備えた“小規模な道の駅”のような施設がイメージしやすい。
・夏場は日差しが強いため、公園などに屋根付きや緑陰空間の整備が望ましい。
・想定する利用者層・ターゲットについては、「地元住民」か「観光客」か明確に設定することが重要。
・テナント数は 10～15 店舗程度を想定し、選択肢を増やして滞在時間を延ばす工夫が必要。
・各テナントの規模は一般的に 30～50 坪程度、地元事業者の場合はそれより小規模でも対応可能。

・津波等のリスクについては、当該区域が浸水想定区域に含まれるため、防災対策を取り入れる方向で検討が必要。

（3）事業スキーム・事業期間について

・参画形態としては、コンソーシアムや JV の一員として関与する形が望ましい。資金力が潤沢ではないため、整備費（資産投資）への負担はできるだけ抑えたいというのが実情である。
・地域の中核企業との連携は極めて望ましい。その際には、メッセージやブランディングを統一・共有できるパートナーと連携したい意向である。
・理想的には、工事区分を A・B 工事は行政、C 工事以降を民間事業者が担う形であれば前向きに検討可能。A・B 工事分を家賃として返済するリース方式も増えていると感じる。
・インフラ（上下水道・電気・ガス等）については、敷地までの引き込みを行政側で整備してもらいたい。また、行政による公共的機能を有する施設の整備・管理への支援を要望する。
・集客の柱となる飲食・物販についてはすべて対応可能であり、できれば一括して任せていただきたい。事業採算性や区画条件を踏まえ、一定の規模で統一的な運営が可能な形での参画を望む。
・事業期間はおおむね 20 年程度を想定している。30 年では、社会情勢の変化などにより将来の見通しが立てにくいことが主な理由である。
・事業期間は一般的に 10 年程度を目安としているが、近年は大型店舗の新設が減少しており、事業期間も都度見直すなど短期化の傾向がみられる。
・サブリース事業および定期借地事業を想定しており、事業期間は概ね 20 年程度が一般的。
・海業としては、テナントの確保状況に応じて 30 年程度の長期事業として視野に入れても良い。
・旭市内では既に複数のメガソーラー事業が立ち上がっており、事業採算性は高いと考えられる。漁港施設内での利用に加え、余剰電力を蓄電・売電に回すことも可能と見込まれる。

（4）事業の参画意向について

・道の駅のような施設やカフェなどの形成を進めるのであれば、参画意欲は非常に高い。施設運営の実績もあるため、一定の規模感をもって事業に関わりたいと考えている。
・新規事業は、事業開始から 3～5 年で償却できることを前提としており、高額な初期投資を要する事業は基本的に行っていない。
・30 年の借地事業も実施しており、収益性が確保できるのであれば長期的な事業展開も可能である。
・当社単独での参画は難しいが、エリア全体で賑わいが創出されるような取組であれば、引き続き検討を進めていきたい。周辺事業者の動向や参加企業の顔ぶれが分かると検討がしやすいため、サウンディング参加者の情報を公表してもらえるとありがたい。
・リース事業はテナントの参入が前提となるため、良質なテナントと協業できる環境が重要。

（5）事業スケジュールに関する事項

・漁港区域外のインフラ工事を含めると、工事期間を 2 年と見込むのは短いと考えられる。
・みらいあさひでは、信号設置にあたり千葉県警との協議に時間を要した経験があることから、インフラ工事を含む場合は、工事期間に余裕をもって設定する必要がある。

（6）その他

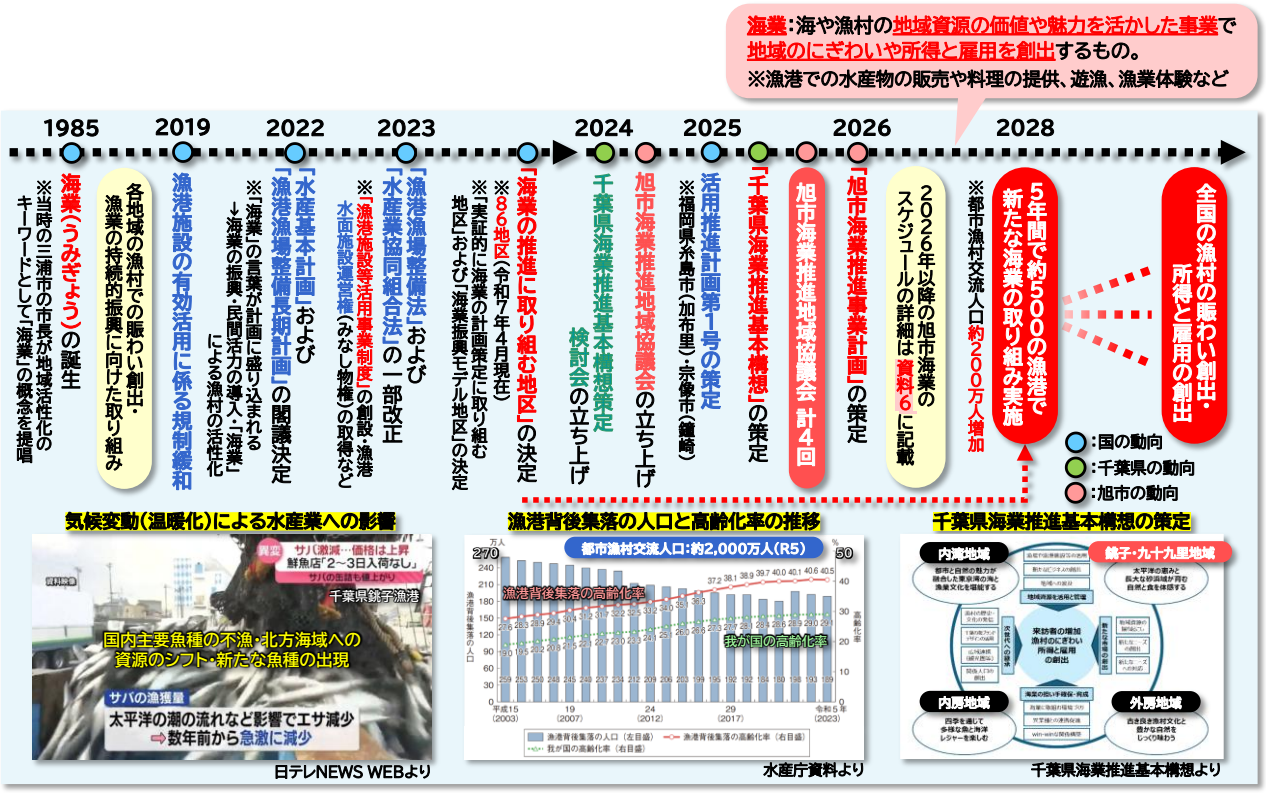
・地域の利益循環がうまく回る仕組みを、地域主体で検討していくことが重要である。
・地元の水産業・水産加工業の振興や観光振興につなげる視点を持つ事業者の参画が不可欠である。
・民間主導による長期的な連携体制の構築が重要である。「みらいあさひ」ではすでに旭市および地域事業者グループとの間で 2020 年に基本協定を締結し、30 年間にわたり連携して事業を推進していく体制を整えている。
・旭市単独での取組にとどまらず、魅力発信の観点から、九十九里・銚子地域全体として行政区分を超えた広域的な連携を図ることが望ましい。
・竣工まで時間を要するため、まちびらき前から段階的に取組（イベント・ソフト事業）を進めることが重要である。

資料編 5　海業(うみぎょう)について

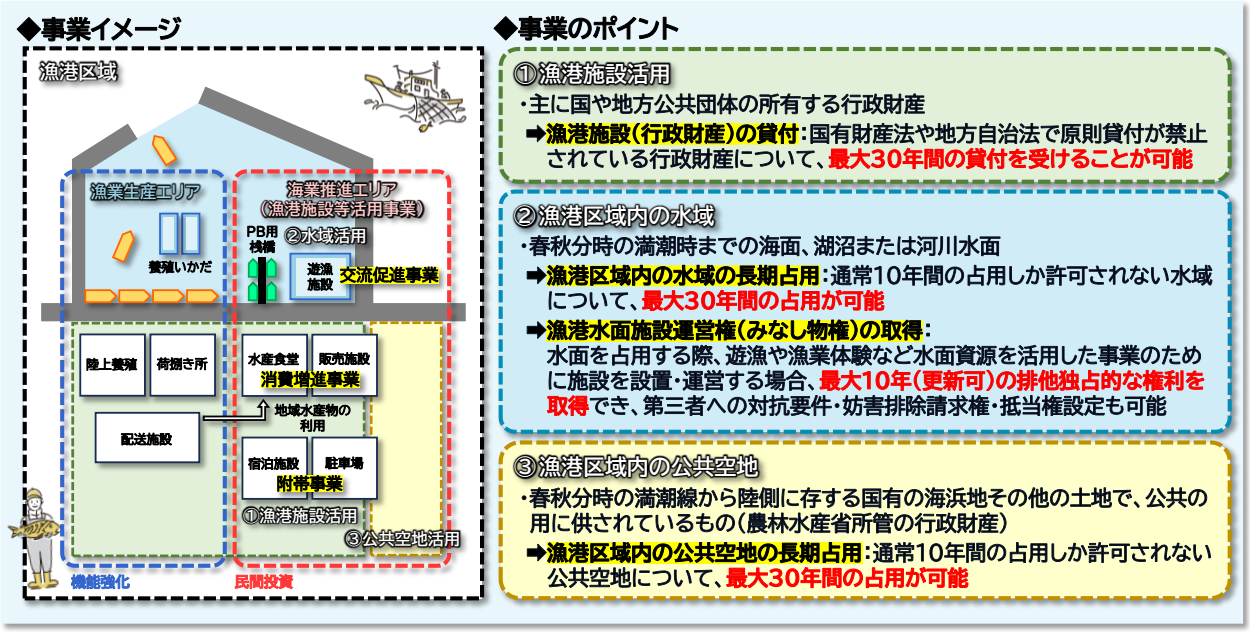
(1) 海業の推進による地域のにぎわい創出・漁業の持続的な振興

漁村では、全国平均を上回る速度で人口減少や高齢化が進行しており、地域の活力が低下している。

一方で、漁村の交流人口は約 2,000 万人と大きなポテンシャルを有しており、今後は交流人口を活かした漁村の賑わい創出が重要となっている。



（2）水産庁による漁港施設等活用事業制度の創設

水産庁では、漁港における漁業上の利用を前提としつつ、その価値や魅力を最大限に活かして水産業や漁村の活性化を図るための制度が創設された。

さらに、2023 年の漁港法等の改正により、漁業上の利用を確保した上で漁港施設等活用事業に関する計画を策定することで、公共が所有する漁港施設等を民間事業者に対して最長 30 年間貸し付けることが可能となった。